

令和4年度 学校経営計画書

1 目指す学校像

(1) 教育目標

個性の伸長を図るとともに、社会の変化に主体的に対応し、地域社会の発展に寄与する人材の育成をめざす。

- ア 自己の確立と生きる力の育成
- イ 豊かな感性と健やかな心身の育成
- ウ 地域社会に貢献できる人材の育成

(2) 目標具現化の柱

目指す生徒像の具体を「自立した、さわやかな高校生」として、この生徒像を実現するための教育活動（プログラム）を学校・家庭・地域が連携して展開する。

「自立した、さわやかな高校生」とは、

◎「自立」の意味するところは、「自分の力を発揮して人の役に立つこと」である。

具体的には、卒業時における次の3つの姿（キャリア教育目標）を目指す。

- 1 困難な状況に置かれても、自ら考え、学び、行動しながらそれを乗り切ることができる。
- 2 多様な相手の考えを理解したり自分の考えを伝えたりし、多様な人々と協働していくことができる。
- 3 地域社会に積極的に参画し、その発展に貢献できる。

◎「さわやかな高校生」の条件

- 1 笑顔ですがすがしく挨拶する。
- 2 校歌を声高らかに歌う。
- 3 清潔で整った身なりを保つ。
- 4 社会のマナーを身に付け、ルール（規則）をしっかりと守る。
- 5 感謝の気持ちを持ち、公共の物を大切にする。
- 6 友人を思いやり、人のために尽くす。

- ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命（いのち）を尊ぶ心を育てる教育を推進する。
- イ 系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、※遠高16の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現をめざす。
- ウ 学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びをめざす授業改善と評価の改善に取り組む。
- エ 新学習指導要領への移行、高大接続改革、ICT活用等の進行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメントの推進を図る。
- オ 双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。
- カ 効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備に努める。

※遠高16の力とは…

人間関係・社会形成能力

- ① 伝える力
- ② 聴く力
- ③ 公共心
- ④ チームで働く力

自己理解・自己管理能力

- ⑤ 自己有用感
- ⑥ 自ら行動する力
- ⑦ 粘り強く行動する力
- ⑧ ストレスに対応する能力

課題対応能力

- ⑨ 課題を発見する力
- ⑩ 調べる力
- ⑪ 計画的に取り組む力
- ⑫ まとめる力

キャリアプランニング能力

- ⑬ 選択する力
- ⑭ 学びに向かう力
- ⑮ 役立とうとする意識
- ⑯ 前に踏み出す力

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
ア	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命（いのち）を尊ぶ心を育てる教育を推進する。	・学校生活のあらゆる場面での身だしなみ指導の徹底を基本に、身だしなみ検査での公平公正な指導を継続する。	・校長による身だしなみ指導件数0（ゼロ）の継続	生徒課 全員
			・欠席、遅刻、早退者数の減少（昨年 1 日平均：欠席 8.5 人、遅刻 4.7 人、早退 1.2 人）	教務課 全員
		・規範意識の向上のため、常日頃からの成長を促す生活指導、生徒観察と声掛けの徹底、好ましい授業態度の徹底に努める。	・生徒指導件数 10 件以内（昨年 3 件、延べ 12 人） （一昨年 16 件、延べ 30 人）	生徒課 全員
			・さわやかな挨拶が日常的に交わされる学校	
		・自己管理能力の育成のため、SHR や集会、特別活動等で生徒手帳の利用を進める。	・生徒手帳の効果的利用の推進	
		・生徒の自尊心を高めるため、全ての教育活動において褒めて育て、認めて接する。	・自己有用感の向上(キャリアアンケート) 昨年比増 (昨年 1 年 75.3%、2 年 60.6% 3 年 65.6)	全員
		・相談室を核に、年次、担任をはじめ全ての職員が連携して、生徒の心のサポートを行う。	・生徒間のいじめ、0（ゼロ）をめざす。 ・生徒相談件数 昨年比減 (昨年 延べ 256 件)	相談室 生徒課 各年次 全員
		・保健だよりなどで「食」の話題を提供し、生徒の関心を高め、朝食摂取率を上げて食生活を充実させ、健康で力強い体力を養成する。	・朝食摂取率 95%以上 (昨年 95.2%)	保健課
イ	系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、遠高 16 の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現をめざす。	・校歌に触れる機会を増やす。 (音楽授業だけでなく、校内放送で流す、部活動で歌う等)	・集会、式典において校歌を声高らかに歌える。(目指す生徒像)	音楽科 生徒課 生徒会
		・全職員がキャリア教育全体計画を把握し、キャリア教育目標達成のため連携・協力して推進する。	・生徒アンケート(研修課)で「キャリア教育を推進している」が昨年比増(昨年 86.4%)	総合学科 推進室 研修課
		・1 年次生「遠高生が考える『憧れの大人』プロジェクト」と 2 年次生「遠高生が考える『心とらぐ森町』プロジェクト」を全職員協力の元、成功させる。 ・1、2 年次キャリア教育と繋がる 3 年次 S U T の編成	・キャリア教育に関するアンケートで、『聴く力』と『計画的に取り組む力』に関して「できない」と回答する生徒 0 %、『自ら行動する力』と『学びに向かう力』に関して「できる」と回答する生徒 75%以上	総合学科 推進室 1 年次 2 年次 3 年次 全員
		・『産業社会と人間』で、系列での学びと将来のつながりをイメージさせ、その道のプロや卒業生講話などにより、キャリアプランニング能力を高める学習を実施する。	・2 年次への円滑な移行とキャリア学習の接続をサポートする。	総合学科 推進室 各系列 1 年次
		・進路課、推進室、年次が連携・協力して進路決定をサポート。多様な進路に対応する。	・進路決定率 100%（3 年次） ・希望進路決定率 2 年次 80% 1 年次 60%以上	進路課 総合学科 推進室 各年次

ウ	学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びをめざす授業改善と評価の改善に取り組む。	・教務、進路、年次が連携して効果的な学習課題の選定や実施を行う。 ・テスト前学習支援指導の推進 ・各教科でも日頃から適切な課題(宿題)を課して、学習習慣の定着を図る。	・家庭学習時間 1 日平均 60 分、定期テスト 1 週間前から 90 分をめざす。	教務課 進路課 各年次 各教科
		・引き続き新聞活用を継続し、言語活動の充実を図る。 ・朝の読み聞かせ会の継続実践	・落ち着いた朝読書の定着と新聞活用指導の継続 ・図書室の利用者数増	図書課 各年次
		・授業改善研修、定期訪問時の研究協議と授業公開週間への全員参加により、自身の授業に還元し、授業改善を進める。 ・「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツールを活用し、生徒の学力を的確につかみ、指導の検証、改善に結びつける。	・定期訪問時の研究授業や研究協議の参加率 100% ・全教員がアクティブラーニングを意識した授業を管理職の授業観察時に実践（実施率 100%） ・授業公開週間時の授業参観率 80%以上 ・測定ツールで把握した学力に基づき、授業改善に取り組んだ教員 80%以上	研修課 全員
		・全科目、全集団での授業アンケートの実施を進め、授業改善の一助とする。	・年 2 回の授業アンケートの実施と活用（継続）	教務課 全員
		・主体的な学びを育成するため、目標と評価の一体化を柱に、総括的評価、形成的評価、ルーブリック評価などを組み合わせた評価方法を実践していく。	・全科目で評価方法の点検を行い、シラバスに反映させる（実施率 100%）	
エ	新学習指導要領への移行、高大接続改革の進行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメントの推進を図る。	・全職員による教育改革の現状理解と施行・導入に向けた準備を本格的に開始する。 ・高大接続改革について全職員が共通理解の下、対応を進める。 ・すべての教育活動を連携、連動、協調させ、持続可能で循環する教育活動を築くことを全職員で意識し、社会に開かれた教育課程の導入を進める。	・教育改革、高大接続改革の理解を深めるための校内研修の実施と外部研修への積極的な参加 ・教育課程の点検、検討を進める。(社会に開かれた教育課程を意識) ・ポートフォリオの導入、実践 ・校務内規の点検継続 ・ESD（持続可能な開発のための教育）の理解推進	管理職 研修課 教務課 進路課 生徒課 全員

オ	双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。	情報の発信・受信だけでなく、生徒が外に出ていく、あるいは外部人材が来校して授業に関わるなど、相互交流を一層進める。	- キャリア教育に限らず、生徒自身が地域に出て行く機会を増やす。 - 各部活動による年1回以上のボランティア活動の実施 - 系列や専門分野での外部人材の活用推進	各教科 各系列 各年次 部活動
		開校14年目を迎え、出版物・配布物、ホームページ等の点検と刷新、活用の推進を図る。	- 学校案内をさらに見やすく改善する。 - 学校だより、学校新聞の内容を点検し、各2回発行	総務課 生徒課 図書課ほか
		学校ホームページの活用を推進するため、全職員が教育活動の情報（内容・写真等）を情報課に提供、集約させる。タイムリーな情報発信による広報活動を推進する。	- 学校ブログの更新、週1回以上 - 各部活動や系列の活動状況、学校行事の様子等を、大会や行事終了後1週間以内に、ホームページに掲載	情報課 全員
カ	効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備に努める。	防災対策、防災教育を全職員で常に意識し、非常時の生徒の安全・安心を確保する。	- 年3回の防災訓練のうち、事前通知なしの訓練の導入検討 - 学校警備及び防災計画の継続的な点検、改善	総務課 管理職
		- 教職員がコミュニケーションを図り、連携・協力して効率よく業務を進める。 - 休暇取得の励行 - 定時退勤日の設定（毎週月曜日）と実行 - 適正な退勤時間の推進 - 部活動ガイドラインの公開に伴い混乱のない履行をすすめる。	- 時間外勤務の出勤簿への正確な記入 1ヶ月あたりの時間外勤務45時間以内、年間360時間以内 - 夏季休暇の完全取得 - 定時退勤日 午後4時40分退勤励行 午後6時完全退勤 平常日 午後7時退勤励行 午後8時完全退勤 - 部活動ガイドライン履行達成率80%	管理職 全員
		コンプライアンスの意識を徹底し、不祥事の根絶を図る。	- コンプライアンス研修毎月1回 - 教職員の不祥事0、体罰0	管理職 全員
		- 全ての教育活動への支援を前提とした、効果的で適正な予算執行を進める。 - 全職員が危機管理を意識した施設設備の維持、点検、保安の推進と事務室との連携を図る。	- 監査・検査等の指示・指摘事項0 - 日頃からの清掃、点検、整備（校舎内外、農場含む）、危険箇所等の早期発見と改善に努め、施設に関する事故0	事務室 全員